

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
看護学部	看護学科	夜・通信		119		119	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学内 WEB システムおよびホームページ https://www.jrckien.ac.jp/faculty/faculty04/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[R7.4.1.pdf](#)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	日本赤十字社 副社長	R4.7.1 ～R7.6.23	理事長を補佐し、法人の業務を掌理する
非常勤	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長	R4.4.1 ～R7.6.23	理事長を補佐し、法人の業務を総括的に掌理する
非常勤	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長	R6.4.1 ～R7.6.23	理事長を補佐し、法人の教学関係業務を分担する
非常勤	日本赤十字社代表支部 事務局長会 会長（日本赤十字社東京都支部事務局長）	R4.7.1 ～R7.6.23	全国の日赤支部の関係からの助言、提言等
非常勤	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事	R5.4.1 ～R7.6.23	看護師の育成に関する助言、提言等
非常勤	公立大学法人三重県立看護大学 理事長・学長	H30.4.1 ～R7.6.23	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
非常勤	東京国立博物館長	R4.4.1 ～R7.6.23	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
非常勤	尚美学園大学 名誉教授	H30.4.1 ～R7.6.23	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
（備考）当学園寄附行為の規定等に基づき、理事の任期は令和7年度定時評議員会終結の時（R7.6.23）までとなる。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
シラバス作成のためのFD研修(オンデマンド)を実施(11月中旬～1月)	
＜シラバス記載項目＞ 当該科目で育成するDPの力、到達目標、授業計画、学修課題(予習、復習)、先行履修科目(ある場合)、テキスト、参考文献、評価方法、教員等の実務経験(ある場合)、メッセージ 教務委員によるチェック、科目担当者による修正、教務委員会にて再確認の工程を経て、WEB上でシラバスを公開している。	
授業計画書の公表方法	https://asm-ediea.com/jrckicn/open/ja/syllabuses
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 1) 科目担当者が、あらかじめシラバスに記載した評価方法に則り、科目履修者の評価を実施。 2) 評価方法ごとの内訳得点を記載した「評点内訳表」を提出。 3) 当該学期開講科目の評価を教務委員会で承認。 以上の過程を経て、単位を与えている。その後、教授会で各学期の成績一覧を報告している。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 評価およびGPを、90-100点・S・4、80-89点・A・3、70-79点・B・2、60-69点・C・1、59点以下・Dまたは無効・0とし、各評価を得た科目の単位数にGPを乗じた総和を総履修単位数で除したものをGPAとして算出している。 下記の計算式及び、小数点第3位以下を四捨五入すること、総履修単位数に含むものと含まないもの、学期GPAと通算GPAの説明も公表している。 <計算式> $GPA = \frac{[Sの単位数 \times 4] + [Aの単位数 \times 3] + [Bの単位数 \times 2] + [Cの単位数 \times 1]}{総履修単位数}$ 学生は、各自のGPAをポータルサイト上で確認することができ、併せて、学期ごとに配付する成績通知書にも記載している。また、学生に配付する成績通知書と同内容の成績通知書を保証人にも発送している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページ ホーム > 学部 > カリキュラム > 成績・評価 https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-6/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学ではディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与に関する以下の方針を定めている。所定の単位を収め、次の能力を身につけた者に学士（看護学）の学位を授与する。

1. 人間の生命と尊厳を大切にする力

- (1) 生命の健康、尊厳を守るための知識、教養、態度を身につけている。
- (2) 赤十字の基本原則に基づき行動できる。

2. 内省し、学び続ける力

- (1) 自らの思考、感情、行動を内省できる。
- (2) 自らの将来に向かって、主体的かつ自律的に学ぶことができる。

3. 人や社会をみる力

- (1) 人や社会に関心をもち、多様性を理解することができる。
- (2) 人や社会の課題を発見し、その解決に向けて他者と協働できる。

4. 看護を実践する力

- (1) 人々のニーズをとらえるための知識を体系的に修得している。
- (2) 人々の健康課題に対して多角的な視点から根拠に基づいた解決策を導き出し、実践・評価することができる。

5. 柔軟な発想で看護を探究する力

- (1) 看護の発展のための研究に取り組む基礎的な力を修得している。
- (2) 看護実践を通して、社会に貢献する姿勢を身につけている。

なお、卒業に必要な単位（124 単位以上）および卒業要件に係る単位数を一覧にして学生便覧/履修の手引き（WEB 版）により公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

履修の手引き（WEB 版）、ホームページ

○ディプロマ・ポリシー

<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page06>

○科目一覧

<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-4/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
収支計算書又は損益計算書	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
財産目録	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
事業報告書	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
監事による監査報告(書)	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)

2. 事業計画(任意記載事項)

○単年度計画(名称: 事業計画収支予算 対象年度: 令和7年度) 公表方法: ホームページ(1ba022a9a0fd7af3cb2fdb13cd0ab595.pdf)
○中長期計画(名称: 学校法人日本赤十字学園第四次中期計画 対象年度: 2024年度(令和6年度)~2028年度(令和10年度)) 公表方法: ホームページ(86245d779f42d0f5bb13bc64010b603a.pdf)
○2040年に向けたグランドデザイン(名称: 学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン) 公表方法: ホームページ(R6.5.13.pdf)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_b_jikotenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_b_jikotenken/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学部看護学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/)
(概要) 本学は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術を中心として、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究するとともに、知性、道德及び応用的能力を養い、もって国内外で活躍できる実践力をもった看護専門職の育成及び看護学の発展に寄与することを目的とする
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page06)
(概要) 本学ではディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与に関する以下の方針を定めている。所定の単位を収め、次の能力を身につけた者に学士（看護学）の学位を授与する。 1. 人間の生命と尊厳を大切にする力 (1) 生命の健康、尊厳を守るための知識、教養、態度を身につけている。 (2) 赤十字の基本原則に基づき行動できる。 2. 内省し、学び続ける力 (1) 自らの思考、感情、行動を内省できる。 (2) 自らの将来に向かって、主体的かつ自律的に学ぶことができる。 3. 人や社会をみる力 (1) 人や社会に関心をもち、多様性を理解することができる。 (2) 人や社会の課題を発見し、その解決に向けて他者と協働できる。 4. 看護を実践する力 (1) 人々のニーズをとらえるための知識を体系的に修得している。 (2) 人々の健康課題に対して多角的な視点から根拠に基づいた解決策を導き出し、実践・評価することができる。 5. 柔軟な発想で看護を探究する力 (1) 看護の発展のための研究に取り組む基礎的な力を修得している。 (2) 看護実践を通して、社会に貢献する姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/)
(概要) 本学の学士課程では、看護を人と社会との相互作用により最適な健康状態を実現する働きと考え、ディプロマ・ポリシーに掲げる力を修得させるために、赤十字の理念を基盤として『基礎科目』、『専門科目』を体系的に編成する。教育課程の編成と教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように定める。 1. 教育課程の編成と教育内容 人間の生命と健康、尊厳を守るという赤十字の理念を、国内外のあらゆる状況下における看護実践に具現化し、その実践から学び続けることのできる人材を育成するために、『基礎科目』と『専門科目』を以下の通り配置し、体系的、段階的に学修できるように編成する。 (1) 『基礎科目』は、専門科目の基盤となる力を涵養するために、高校から大学で

の学びにつなぐ初年次科目、大学での学びの礎となる科目、豊かな人間性を育む科目から構成する。具体的には、人間の多様性や生命・健康について理解を深めるための科目、人々が暮らす社会を幅広く理解するための科目、論理的思考を育成するための科目、赤十字や災害・国際関連の科目を配置する。

- (2) 『専門科目』は、赤十字の理念に基づき、看護を基礎から統合へと発展的、創造的に学修できる構成とする。「看護の基礎」は、人間の生命と尊厳を守り、最適な健康状態を実現するという看護の本質を学ぶための科目群として位置づけ、基本となる概念やあらゆる看護場面に共通する援助方法の基本を学ぶ講義・演習・実習科目を配置する。「看護の実践」は、「看護の基礎」を土台に、多様な場での、あらゆるライフステージ、健康状態にある人を、取り巻く環境（社会）との相互関連の中で捉え、必要な看護を計画・実践・評価する力を育成するための科目群で構成し、看護学の専門知識と対象の特性に応じた援助方法を段階的に学修するための講義・演習・実習科目を配置する。「看護の統合」は、『基礎科目』と『専門科目』を統合する科目群として位置づけ、自己のキャリアデザインを描き専門職として生涯を通して学び続ける力と、柔軟な発想で看護を探究する力を育成するための科目を配置する。「保健師課程（選択）」は、3年次前期に選択を決定し、3年次後期より必要な学修科目を配置する。
- (3) 本学の特色を示す「赤十字」「国際」を具現化するための科目を基礎から発展的に学修できるよう配置する。赤十字の理念や基本原則に基づき、国や文化、社会状況の異なる場面や災害時においても、適切な看護を実践できる力を育成するために、1年次より赤十字、災害看護、国際関連の講義・演習科目を段階的に設定し、専門科目と関連付けて学修できるよう配置する。

2. 教育方法

- (1) アクティブラーニングを基本とした学修機会を提供し、初年度から主体的かつ自律的な学びを支援する。
- (2) 人間への支援に必要な知識・技術・態度を修得させるために講義・演習・実習を密接に関連づける。
- (3) 赤十字関連施設や地域と連携し、自己の関心や課題に応じて看護の専門性を探究する機会を提供する。
- (4) 学生が自ら学修計画を立て、思考、感情、行動を内省しながら、継続的に学べるよう支援する。
- (5) 人や社会との有機的な繋がりおよび学びの質や機会を充実させるために、デジタル技術を活用する。

3. 学修成果の評価

学生の学修成果の評価については、以下に示す直接評価及び間接評価による様々な指標を用いて、多面的に評価し、可視化する。

入学者の受入れに関する方法

(公表方法：<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page04>)

(概要)

1. 赤十字の理念である人道に基づき、人間の尊厳と権利を理解する人
2. 大学で学ぶために必要な基礎的学力を有している人
3. 他者と良好な人間関係を築くことができる人
4. 自らの考えを適切に表現し、他者に明確に伝えることができる人
5. 国内外の保健・医療・福祉の分野で活躍する意欲のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_a_kyouikujouhou/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
看護学部看護学科	－	7 人	15 人	4 人	15 人	1 人	42 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		52 人					52 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ https://www.jrckicn.ac.jp/guide/guide06/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学部	100 人	112 人	112%	400 人	425 人	106%	0 人	0 人
合計	100 人	112 人	112%	400 人	425 人	106%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学部	116 人 (100%)	3 人 (2.6%)	109 人 (94%)	4 人 (3.4%)
合計	116 人 (100%)	3 人 (2.6%)	109 人 (94%)	4 人 (3.4%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバス作成のためのFD研修（オンデマンド）を実施（11月中旬～1月） <シラバス記載項目> 当該科目で育成するDPの力、到達目標、授業計画、学修課題（予習、復習）、先行履修科目（ある場合）、テキスト、参考文献、評価方法、教員等の実務経験（ある場合）、メッセージ 教務委員によるチェック、科目担当者による修正、教務委員会にて再確認の工程を経て、WEB上でシラバスを公開している。 年間のスケジュールが分かる学年ごとの学年暦及び授業日程表の公開（学内WEB） (https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/)
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学生の学修成果の評価については、直接評価および間接評価による様々な指標を用いて、多面的に評価し、可視化する。			
区分	直接評価・ 間接評価の別	評価指標	
1	直接	科目の成績評価	シラバスに記載された評価方法に基づき、科目担当者が評価する。評価は、点数およびS～Dの5段階で行う。
2	直接	GPAによる評価	GPA (Grade Point Average) * を用いて、学習到達度を客観的・相対的に評価する。（*各科目で得た成績を0～4のグレードポイント(GP)に置き換えた平均値）
3	直接・間接	ジェネリックスキル(GS)に示す力の到達度に対する評価	「GSルーブリック」を用いて、ジェネリックスキルが総合的に到達すべき水準に達しているかどうかを、アカデミック・アドバイザー(AA)が、学生とともに、定期的に評価する。

4	間接	科目の到達目標に対する自己評価	学生自身が、学修成果の可視化システムを用いて、科目別到達目標の達成度を評価する。
5	直接・間接	ディプロマ・ポリシー（DP）に示す力の到達度に対する評価	「DP ルーブリック」を用いて、ディプロマ・ポリシーに掲げた力が総合的に到達すべき水準に達しているかどうかを、科目担当者とアカデミック・アドバイザーが、学生とともに、定期的に評価する。

※アカデミック・アドバイザーとは、入学から卒業まで継続的に学生に修学指導する教員

各科目の評価は、

- 1) 科目担当者が、あらかじめシラバスに記載した評価方法に則り、科目履修者の評価を実施。
- 2) 評価方法ごと内訳得点を記載した「評点内訳表」を提出。
- 3) 各科目の評価を教務委員会で承認の工程を経て、単位を与えている。その後、教授会で該当学期の成績一覧を報告している。

卒業は、本学に4年以上在学し、卒業認定に必要な単位の取得により、認定している。なお、卒業に必要な単位（124 単位以上）及び卒業要件に係る単位数を一覧にして学生便覧/履修の手引き（WEB 版）により公表している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.jrckicn.ac.jp/guide/guide07/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
看護学部	看護学科	1,100,000 円	300,000 円	400,000 円	その他 (実験実習料 200,000 円 維持管理費 200,000 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・アカデミック・アドバイザー（助教以上の全教員）による入学時から卒業時までの少人数ゼミの定期開催及び定期面談の実施。 ・看護師国家試験の模擬試験の学内実施。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・外部業者によるセミナー ・先輩（看護職者）の講話等を主な内容とする就職セミナーの実施。 ・全国赤十字病院説明会の実施。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・健康診断結果に基づく学校医面談の実施。 ・スクール・カウンセラー（臨床心理士）への悩み相談。 ・電話・web による相談窓口の開設。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/research/

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110847
学校名（〇〇大学 等）	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 日本赤十字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		67人（ ）人	60人（ ）人	127人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	31人	27人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	24人	15人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	11人	16人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	一人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				127人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。